

<一般選抜試験>

<科目> 歴史総合, 日本史探究(選択科目)

<出題内容・形式・配点>

大問	内 容	形式	配点	試験時間
1	仏教を中心とした古代文化史	記述	40	60分
2	農業・商業を中心とした中世社会経済史		30	
3	江戸三大改革から明治維新までの近世・近代政治史		30	
合計			100	

<出題の基本方針>

基本的な出題形式は大問三問とし、各大問につき小問八問で構成した。解答形式は、語群選択および用語記述の二形式とした。出題内容は、高等学校の教科書に基づく標準的な学習によって十分に解答可能なレベルとした。歴史用語については必出とする一方で、単なる一問一答形式の暗記に偏ることなく、各時代(古代～近世)の特性や歴史の流れを重視し、因果関係や背景を意識した物語性のある設問構成となるよう配慮した。

<学習のポイント>

授業内容を中心に、教科書・史料集・用語集・図録を活用し、政治・経済、外交、文化の各分野を偏りなく関連付けて学習する、いわゆる三位一体の学習が望まれる。特に、「いつ・どこで・だれが」という基本事項の把握を前提としつつ、「なぜ・どのように」という背景や経過まで踏み込んだ補完的な学習は不可欠である。

また、各教材に掲載されている「史料」や「年表」については、教科書本文への記載の有無にかかわらず、日頃から強い興味・関心を持って読み取る姿勢が、得点力の向上につながると考える。

なお、高校の教育現場や受験生の学習計画への配慮から、本試験における「近現代史」の学習比重は比較的低いものと考えてよい。